

令和7年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立淀中学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標(令和4年度から令和7年度)

現状と課題

- 令和4年度はじめの現状を示す数値として、令和3年度全国学力・学習状況調査における本校の平均正答率は、大阪市平均と比較して、国語が9ポイント・数学が12ポイント低く、令和3年度3年生チャレンジテストでは、本校の平均正答率は、大阪市平均と比較して、国語が6.7ポイント・数学が9.7ポイント・英語が6.9ポイント低かった。学力向上・特に下位層の状況改善に向けて、まず基礎・基本の定着から取組を継続して推進する必要がある。そのための方策の1つとして、校内授業研究の組織体制を整備し、ICTを活用した「わかりやすい授業づくり」の研究に取り組む。
- 本校の大きな特徴として、日本語指導を必要とする帰国・来日の生徒が多数在籍していることがある。平成31年度から日本語指導教員が配置され、グローバル教室やJSLの取組によって、増加傾向にある外国にルーツのある生徒への個別の学習支援に取り組んできたが、さらなるきめ細やかな対応の工夫を図る必要がある。
- 課題となっている生徒の家庭学習等の自主学習習慣の確立をめざして、グローバル教室・放課後学習会・土曜学習会に地域と連携して継続して取り組んできた。また、校区小学校と連携した淀中ブロックの取組として、英語検定・漢字検定を実施し、自主学習の機会を提供してきた。これらを継続しながら、より実態・ニーズに応じた効果的なかたちを模索する必要がある。
- 読解力の向上を目指した図書の活用が、国語のみならずさまざまな教科の学力向上に与える効果は大きいと考える。そのために毎日の放課後に学校図書館を開放して、生徒が読書に親しむ機会の確保に努めてきた。
- 体力・運動能力においては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果として、男女ともおおむね大阪市の平均を上回っているが継続してさらなる向上をめざして取り組む。

中期目標 令和7年度末に令和4年度のスタート時点との対比で検証をおこなうために
年度目標は年度ごとに修正・追加を図るが、中期目標は令和4年度のままだ
している。

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。

R7 : 96% = ○

○年度末の校内調査において不登校生の在籍比率を前年度より減少させる。 R7 : 8% = △

○年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 R7 : 29% = ○

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、肯定的な回答を90%以上にする。

R7 : 90% = ○

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。

R7 : ほぼ前年度と同じ、もしくはやや下降 = ×

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当（英検3級）以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を40%以上にする。 R7 : 53% = ○

○生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」について最も肯定的な回答を33%以上にする。 R7 : 58% = ○

【学びを支える教育環境の充実】

○1人1台端末の環境を生かし、デジタルドリルなどを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びの実現へ取組みを推進する。 R7 : 課題はあるが進めている = △

○生徒アンケートで「ICT 機器や資料などを示し、教え方を工夫してくれていますか」について、肯定的な回答を95%以上にする。 R7 : 90% = ×

○教員の1か月の超過勤務時間45時間以下を50%以上にする。

R7 : 43% = × 注 45時間以内のみだと69%

○ゆとりの日を週1回設定・実施する。（ゆとりの日についてはR6年度目標から削除）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標：R6の目標をR7も継続

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上で維持をする。
(R6：95%) R7：96%＝○
- 年度末の校内調査において、不登校生の在籍比率を前年度より減少させる。
(R6：8%) R7：8%＝△
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の「改善」の割合を増加させる。
(R6：19%) R7：29%＝○

学校年度目標

- 生徒アンケート「学校生活は楽しい」について肯定的な回答を90%以上にする。
(R6：89%) R7：92%＝○
- 生徒アンケート「社会のルールや学校のきまりを守っていますか」について、肯定的な回答を95%以上にする。(R6：94%) R7：96%＝○
- 生徒アンケート「火災や地震、津波が起こったら、どう避難したらいいか理解していますか」について、肯定的な回答を95%以上にする。(R6：94%) R7：98%＝○
- 生徒アンケート「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答を95%以上で維持する。(R6：95%) R7：98%＝○
- 生徒アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な回答を80%以上にする。(R6：77%) R7：80%＝○
- 生徒アンケート「自分のよいところを伸ばし人の役に立つ人間になることにつながる自分自身の進路について、考える機会がありましたか」について、肯定的な回答を85%以上にする。(R6：81%) R7：90%＝○
- 生徒アンケート「道徳の学習では、自分を振り返り、自分のこととして考えることができた」について、肯定的回答率を90%以上にする。(R6：88%) R7：93%＝○
- 生徒アンケート「学校では、教科の授業の中で、あるいは芸術鑑賞など教科の授業以外にもさまざまな体験で学ぶ機会があり、考えが深まった」について、肯定的な回答を90%以上にする。(文言付け足し) (R6：89%) R7：93%＝○
- 生徒アンケート「個性や文化などのさまざまな違いを理解して認め、共に大切にすることは大切だと思う」について、肯定的な回答を95%以上で維持する。
(R6：96%) R7：98%＝○

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標：R6の目標をR7も継続

- 生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する割合を40%以上にする。(R6：37%) R7：46%＝○
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。
(R6：1年＝国語 0.83 数学 0.77 2年＝国語 0.91 数学 0.85)
→R7：2年＝国語 数学 (結果未着) 3年＝国語 0.90 数学 0.84 現時点で×
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当(英検3級)以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を45%以上にする。(R6：40%) R7：53%＝○
- 生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」について最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を65%以上に保つ。(R6：65%) R7：58%＝×

次ページにつづく

学校年度目標

- 生徒アンケート「授業はよくわかる」の肯定的回答率をすべての教科において80%以上にする。R7：86%＝○
- 生徒アンケート「学校図書館は落ち着いて読書ができる魅力的な場所で、本を読んでもみようという気持ちが増した」について、肯定的な回答を前年度より向上させる。
(R6：60%) R7：63%＝○

【学びを支える教育環境の充実】**全市共通目標：R6の目標をR7も継続**

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし大阪市教育委員会事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。)(R6：48%) R7：24%＝×
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を50%以上にする。
(R6：47%) R7：43%＝× 注 45時間以内のみだと69%

注：基準1＝1か月時間外勤務45時間以内 かつ 1年間時間外勤務360時間以内

基準2＝1年間時間外勤務時間720時間以内 かつ 1か月時間外勤務時間45時間を超える月が1年間6月以内 かつ 1か月時間外勤務時間100時間以内 かつ

連続する2か月の平均時間外勤務時間が80時間以内

学校年度目標

- 1人1台端末の環境を生かし、デジタルドリルなどを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びの実現へ取組みを推進し、生徒アンケートで「ICT機器や資料などを示し、教え方を工夫してくれていますか」について、肯定的な回答を90%以上にする。
(R6：86%) R7：90%＝○

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

この後につづく様式2 P7～11 に対応

- 1 全市共通目標として、深刻ないじめ被害を生じさせないこと、および、不登校生徒の状況改善に取り組んだ。
 - いじめについては、いじめは許されないという意識の醸成は進んでいるが、いじめそのものを無くするには至っていない。ただし、認知・組織対応を迅速丁寧に進めたことにより深刻な被害は生じさせていない。
 - 不登校については、数を減らすことに有効な手立ては見つけられていないが、SSW や SC や関係機関につなげることを「改善」と位置づけて取り組んだ結果、一定効果はあった。ただし、不登校生徒が教室に入れなくても学習を進められる手立ての構築を目指すもの至っていない現状である。
- 2 学校目標として、規律ある安全安心にすごせる学校づくり、自分ごととしての防災意識と知識の伸長、道徳心の育成につながる授業改善、多様な体験活動の充実、外国にルーツのある子どもたちの支援と理解（＝共生教育の推進）に取り組んだ。
 - アンケート調査による規範意識は高く示されているが実際には一部生徒による問題行動はなくなり対応に苦慮している現状である。ただし学校全体の落ち着きは昨年度に比べて大きく改善された。
 - 防災意識と知識はミニマムな範囲であるが伸長した。
 - 道徳教育のブロック拠点校としての取組を校区小学校の協力を得て進めることができ、道徳意識の育成につながる道徳授業の改善を果たすことができた。
 - 立案した芸術鑑賞会、琴の体験授業、西淀川区四中・区役所・区PTA 協議会が連携した2年生の模試体験（に一よん模試）は、計画通りに終わることができそうである。全体として体験活動については、コロナ禍をはさみ縮小されているが、教育効果の大きい活動と位置づけているのでより充実を図りたい。
 - 外国にルーツのある子どもたちの支援と理解については、日本語指導担当者の熱心な取組と共生支援拠点「らんまん」との連携により、大阪市でも特筆に値するレベルで進めることができている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

この後につづく様式2 P12～20 に対応

- 1 全市共通目標として、授業スタイルの変革・授業改善、結果としての学力向上、運動に対する肯定的な意識の育成、結果としての体力向上に取り組んだ。
 - 授業規律の確立と維持が優先される現状が続き、授業スタイルの変革・授業改善は十分に進んでいない。結果として学力の向上には至っておらず課題が大きい現状である。ただし、子どもたちの教員や授業に対する受け取りはたいへん肯定的である。
 - 運動に対する肯定的な意識は全体に高く、結果としての体力も全国体力・運動能力調査で全国平均を特に男子は大きく上回っている。ただし、これについては「学校の取組により伸びた部分」よりも「もともと持っている部分」の割合が大きいと考える。
- 2 学校目標として、読書活動の推進、食育・保健指導の充実に取り組んだ。
 - 学校図書館の整備と読書環境の提供については、学校元気アップの協力を得て、とても進んでいる。しかし、そのことが子どもたちの読書意欲や読書活動の充実には十分に結びついていない。

3 本年度の自己評価結果の総括つづき

【学びを支える教育環境の充実】

この後につづく様式2 P21~23 に対応

- 1 全市共通目標として、1人1台学習者用端末の活用推進、および、教員の働き方改革の推進に取り組んだ。
 - 授業規律の確立と維持が優先される状況が続き、授業における1人1台学習者用端末の活用推進に教員が尻込みしている現状がある。思い切って1人1台端末の活用推進を含めた授業スタイルの変革に取り組もうという意識は共有できている。心の天気による子どもたちの状況把握は未だ十分とは言えないが昨年度より改善された。家庭学習や諸連絡における活用も課題として今後積極的に取り組んでいく。
 - 働き方改革の推進については、十分な水準の教育活動の提供との両立が難しいのが現状であり持ち帰り仕事も多い。ただし、業務の効率化・スリム化・ワークライフバランスを可能な範囲で進めていこうという意識は共有できている。
- 2 学校目標として、地域と連携した開かれた学校づくりに取り組んでいる。
 - この分野については、学校元気アップの支援を特筆に値する水準で実現しているので、今後、現状とフィットしていない部分の改善を進め、より有効な機能を目指していく。

備考 安全・安心な教育の推進、未来を切り拓く学力・体力の向上、
学びを支える教育環境の充実 の3分野ともに、中期目標は年度目標と同等もしくは
やや低く設定されているので、ここに記述している内容は、中期目標に対してもその
ままあてはまる。

大阪市立淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標：R6の目標をR7も継続</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を <u>95%以上</u> で維持をする。(R6: 95%) R7: 96% = ○</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生の在籍比率を前年度より減少させる。(R6: 8%) R7: 8% = △</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の「改善」の割合を増加させる。(R6: 19%) R7: 29% = ○</p> <p>学校年度目標</p> <p>○生徒アンケート「学校生活は楽しい」について肯定的な回答を <u>90%以上</u> にする。(R6: 89%) R7: 92% = ○</p> <p>○生徒アンケート「社会のルールや学校のきまりを守っていますか」について、肯定的な回答を <u>95%以上</u> にする。(R6: 94%) R7: 96% = ○</p> <p>○生徒アンケート「火災や地震、津波が起こったら、どう避難したらいいか理解していますか」について、肯定的な回答を <u>95%以上</u> にする。(R6: 94%) R7: 98% = ○</p> <p>○生徒アンケート「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答を <u>95%以上</u> で維持する。(R6: 95%) R7: 98% = ○</p> <p>○生徒アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な回答を <u>80%以上</u> にする。(R6: 77%) R7: 80% = ○</p> <p>○生徒アンケート「自分のよいところを伸ばし人の役に立つ人間になることにつながる自分自身の進路について、考える機会がありましたか」について、肯定的な回答を <u>85%以上</u> にする。(R6: 81%) R7: 90% = ○</p> <p>○生徒アンケート「道徳の学習では、自分を振り返り、自分のこととして考えることができた」について、肯定的回答率を <u>90%以上</u> にする。(R6: 88%) R7: 93% = ○</p> <p>○生徒アンケート「学校では、教科の授業の中で、あるいは芸術鑑賞など教科の授業以外にもさまざまな体験で学ぶ機会があり、考えが深まった」について、肯定的な回答を <u>90%以上</u> にする。(文言付け足し) (R6: 89%) R7: 93% = ○</p> <p>○生徒アンケート「個性や文化などのさまざまな違いを理解して認め、共に大切にすることは大切だと思う」について、肯定的な回答を <u>95%以上</u> で維持する。(R6: 96%) R7: 98% = ○</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容・指標【安全・安心な教育の推進】	達成 状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめのない学校づくり（生活指導部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」を設定し、「いじめを許さない学級・学校づくり」について子どもたちがお互いによく理解し考える機会を設ける。 ●いじめのアンケートを実施、認知したいじめについては、チームとしてその対応にあたる。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学期ごとに「いじめアンケート」を実施し、認知したいじめについて対応した割合を100%できるようにする。 	B
<p>【成果と課題】（成果） アンケートで10件認知したがすべて対応できている。 記録を教職員で共有し継続的な指導ができている。 アンケートの取り方もICTと紙面を併用し、応えやすい、周知しやすい方法に務めている。</p> <p>（課題） 目に見えないSNSや学校外での嫌がらせ、トラブルなどが認知できていないことがある。 SOSが出しやすい環境を整えていきたい。クラス、学年によって取組みに差があるので学校としての対応、方針を整備していきたい。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 規律ある学校・暴力行為のない学校づくり（生活指導部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●警察、子供相談センター、SSWやSCや関係諸機関と連携し、生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる仕組みづくりをする。 ●ケース会議等、組織的対応が100%できるようにする。 ●学期に一度程度、生活指導に関する講話(SNS 非行防止など)を行う。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆校内における生徒アンケート「社会のルールや学校のきまりをまもっていますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上で維持する。 	A
<p>【成果と課題】（成果）アンケートは96.8% 警察取り扱い事件案件、虐待案件、校内での暴力案件、他校との情報共有など様々な案件に対応することができた。</p> <p>（課題）・案件の数が多いので、事前指導に力をいれたい。 ・事前指導、事後指導に関わらず指導が入っていない生徒が数名いる。 ・外部機関等も積極的に活用しているがなかなか改善がむずかしい。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校生徒への支援体制（生活指導部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SSWやSCや関係諸機関等と連携して、不登校生徒の対応を行う。 ●不登校生徒の状況を鑑み落ち着いて学習に取り組むことができる環境を整備する。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆年度末の校内調査において、不登校生の在籍比率を前年度より減少させる。 	B
<p>【成果と課題】（成果）学期ごとに不登校生徒をまとめスクリーニングを行っている。現在34名である。（昨年度34名）在籍比率は8.2%であった。</p> <p>（課題）校内の学習ルームや外部機関につないでいくことを目標にしているが改善することが難しい現状がある。</p>	

<p>取り組み内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>防災教育（健康教育部（防災担当））</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緊急時に適切な判断ができる生徒を育成するため、「防災計画」を作成する。 ●災害等に備え、避難訓練・集団下校訓練を実施する。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒アンケートの「火災や地震、津波が起こったら、どう避難したらよいか理解していますか」の項目で、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 ◆ 避難訓練後の生徒アンケートで、「校内災害発生時の避難の方法がわかった」の回答の割合を90%以上にする。 	B
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災計画は作成済み。 ・5月末に避難訓練（震災・津波発生を想定したもの）・集団下校訓練を実施し、訓練前に各学級にて震災や避難について学習した。 ・生徒アンケート「火災や地震、津波が起こったら、どう避難したらよいか理解していますか」の項目で肯定的回答が99.3%であり、指標の95%を上回った。 ・避難訓練後の生徒アンケートで、「校内災害発生時の避難の方法がわかった」の肯定的な回答が98.7%であり、指標の90%を上回った。 ・11月に避難訓練（火災を想定したもの）を実施した。生徒アンケート「火災が起きた時にどの経路で避難すればよいかわかった」の項目で肯定的な回答が99.3%となり、指標の90%を上回った。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期及び2学期に実施した避難訓練の両方の生徒アンケートで、肯定的な回答が95%以上であった。次年度も引き続き肯定的な回答を高く維持できるように努めたい。 	
<p>取り組み内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳心の育成（教務部（道徳教育推進担当））</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「特別の教科 道徳」を推進するための研究（授業法・評価法）を進める。 ●道徳教育の取り組みについて道徳便りで情報発信する。 ●ブロック拠点校の取り組みを計画的に行う。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒アンケートの「自分を振り返り、自分のこととして考えることができましたか」「友達の意見を受け入れることができましたか」「積極的に参加し、考えることができましたか」の項目で肯定的回答の割合を<u>すべて80%以上</u>にする。 ◆ 道徳だよりを学期に1回（年間3回）発行し、情報発信する。 ◆ 公開授業を1回、研修を2回行う。 	B
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果より、肯定的回答の割合は「自分を振り返り、自分のこととして考えることができましたか」は92.8%、「友達の意見を受け入れることができましたか」は95.8%、「積極的に参加し、考えることができましたか」は88.0%と目標の80%を上回っている。特に「積極的に参加し、考えることができましたか」については前期より後期の方が3.0%も肯定的回答が増加した。 ・1、2学期に道徳だよりを1回ずつ発行できた。3学期も計画通り発行する予定。 ・1学期と夏休みに講師を招いて研修を2回行い、公開授業・研究協議を10月21日に実施できた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から道徳ノートがなくなり、急遽授業の感想プリント冊子を作製したが使いにくいので、来年度の道徳ノートについて検討する必要がある。 	

<p>取り組み内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>多様な体験活動の推進（教務部（学校行事担当）・音楽科・管理職）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な芸術に触れ合わせる鑑賞機会を設定し、豊かな心を育む。 ● 全校生徒対象の琴の演奏体験学習を実施し日本の伝統文化について知り考える機会をつくる。 ● 西淀川区四中学校が連携した「に一よん模試」を土曜授業あつかいで実施し、自分自身の進路について考えるきっかけをつくる。（継続について検討中） <hr/> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒アンケート「学校では、教科の授業の中で、あるいは芸術鑑賞など教科の授業以外にもさまざまな体験で学ぶ機会があり、考えが深まった」の項目の肯定的回答の割合を90%以上にする。（文言付け足し） ◆ 生徒アンケート「自分のよいところを伸ばし、人の役に立つ人間になることにつながる進路について、考える機会がありましたか」について、肯定的な回答を85%以上にする。 	B
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月に文化祭を実施した。 ・ 12月に芸術鑑賞会を実施した。 ・ 琴の演奏体験学習については音楽科の授業として全学年実施。 ・ 「に一よん模試」についてはその存続について現在協議中であるが、今年度については、昨年度と同様に、3月14日に実施予定。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ に一よん模試については、さまざまな運営上の課題がある状態なので、実施方法の大きな変更について、区内四中学校・区役所・区PTA協議会で検討中。 	

<p>取り組み内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>外国にルーツのある子どもの支援・多文化理解（教務部（人権・外国人教育担当））</p> <ul style="list-style-type: none"> ●抽出による個別の日本語指導で、生活言語の定着を図る。 ●日本語指導者やJSL指導者による教科指導、グローバル教室において、日本語での学習についていけるだけの学習言語の定着を図る。 ●国際クラブ（ペルー教室・フィリピン教室・ネパール教室・中国教室）において、母国についての知識を深め、母語の習得とアイデンティティーの確立を図る。 ●第1共生支援拠点「らんまん」と連携して講師を招聘し、「国際理解・多文化共生」学習の機会を設ける。 	
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆日本語教室に在籍する生徒に対して、年2回 JLPT を行い（N5～N3）、個人の結果の平均を初回より平均5%上回るようにする。日本語教室に在籍する生徒へのアンケートの「日本語の学習は楽しいですか？」の項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 ◆日本語指導者やJSL指導者による教科指導を受けている生徒、グローバル教室に参加している生徒にアンケートを行い、それぞれの満足度を70%以上にする。 ◆学期に1回、年3回国際クラブの活動を行い、参加生徒へのアンケートの「母国についての知識を高めることができましたか？」の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ◆生徒アンケート「個性や文化などのさまざまな違いを理解して認め、共に大切にすることは大切だと思う」について、肯定的な回答の割合を95%以上で維持をする。 	A
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室に在籍する生徒に対して、年2回 JLPT を行い、個人の結果の平均が初回より平均30%上回った。同生徒へのアンケートでは、上記の項目に関して肯定的な回答の割合は100%だった。 ・日本語指導者やJSL指導者による教科指導を受けている生徒の満足度は89.2%だった。グローバル教室に参加している生徒の満足度は88.0%だった。 ・学期に1回、年3回国際クラブの活動を行った（フィリピン教室は3月に実施予定）。参加生徒へのアンケートでは、上記の項目において、肯定的な回答の割合は91.3%となった。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際クラブ指導者と校内の予定を合わすのが非常に難しい。キャリア支援コーディネーターと連携し、早めの予定の確認・調整を行う必要がある。 ・ネパール教室は指導者の登録がなく、今年度は実施できなかった。 ・昨年度に比べ、グローバル教室に参加している生徒が減っている。学習時間を確保するため、積極的に声をかけていく必要がある。 	

中期目標は年度目標と同等、もしくはやや低く設定されているので、成果と課題についての記述は、そのまま中期目標に対してもあてはまる。

大阪市立淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標：R6の目標をR7も継続</p> <p>○生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する割合を <u>40%以上</u>にする。(R6：37%) <u>R7：46%＝○</u></p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。(R6：1年＝国語0.83 数学0.77 2年＝国語0.91 数学0.85)</p> <p>→R7：2年＝国語 数学(結果未着) 3年＝国語0.90 数学0.84＝現時点で×</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当(英検3級)以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を <u>45%以上</u>にする。(R6：40%) <u>R7：53%＝○</u></p> <p>○生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」について最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を <u>65%以上</u>に保つ。(R6：65%) <u>R7：58%＝×</u></p> <p>学校年度目標</p> <p>○生徒アンケート「授業はよくわかる」の肯定的回答率をすべての教科において <u>80%以上</u>にする。 <u>R7：86%＝○</u></p> <p>○生徒アンケート「学校図書館は落ち着いて読書ができる魅力的な場所で、本を読んでもみようという気持ちが増した」について、肯定的な回答を前年度より向上させる。(R6：60%) <u>R7：63%＝○</u></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】	達成状況
<p>取り組み内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>指導力向上/研究授業(教務部(学力向上担当))</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習のテーマを決めた研究授業、研究協議や、校内研修を実施し、授業の充実、新たな授業づくりにつなげる。 ● すべての授業者が、一人ひとりの子ども観、学級観、単元や授業のねらいを明確にし、主体的・対話的で深い学びの授業の創造に努める。 ● 学力向上について基本的な授業の改善(ねらい、めあてを示す、一方的に話さない、板書計画を立てる等)を確実に行う。 ● 放課後学習会を活用して、学力に課題のある生徒の学習の支援を行う。 ● 朝学習でタブレット端末を使用し、基礎的な学力の習得をさせる。 <p>【指標】</p> <p>◆ <u>生徒アンケートの「授業はよくわかる」の肯定的回答率をすべての教科において80%以上にする。</u></p>	B

<p>【成果と課題】</p> <p>(成果)・2学期の生徒アンケートの結果では、9教科が肯定的回答率80%以上を達成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月に主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「指導と評価の一体化」を研究テーマに据えた研究授業を実施した。 ・来年度からスタサプの動画を本格的に運用していくために、授業や長期課題で活用することができた。 ・放課後学習会の実施を原則週4回実施した。 <p>(課題)・概ねアンケートの目標は達成できているが、学力検査の結果は依然低い状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> →引き続き、試験前の補習や委員長の試験対策問題を継続する。 →放課後学習会への参加の呼びかけを各担任にしてもらう。 →授業の振り返りの活動を通しての授業改善をおこなう。 →相互授業参観期間以外での、相互参観を推進していく。
--

取り組み内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（教務部（各教科主任））】

国語科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ICT教材または視聴覚教材を、全教員が単元に1回以上使用する。 ●国語科の授業や定期テストの中で、「書くこと」に関する指導をより深め、記述式問題等に対する意欲を高める。 ●記述式問題（20字程度）を毎回定期テストで出題する。 	B
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生徒アンケートの「国語の学習はわかりますか」及び「国語の授業は楽しいですか」の肯定的意見を80%以上にする。 ◆定期テストで記述式問題の無解答率を20%以下にする。 	
<p>【成果と課題】</p> <p>(成果)・ICT教材または視聴覚教材を単元に1回以上使用することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に関する指導を工夫し、授業・定期テストで記述問題を出題することができた。 ・生徒アンケートで「国語の学習はわかりますか」が89%、「国語の授業は楽しいですか」が88%で肯定的意見を80%以上達成することができた。 ・記述問題の無解答率は平均10%ほどだが、問題や単元によって20%を超えるものもあった。 <p>(課題)記述式問題の内容によって、無解答や減点が見受けられるので、練習問題の充実や対策を考えていく。</p>	
<p>【次年度に向けた計画】</p> <p>ICT教材や視聴覚教材を継続的に用いて、単元や内容の説明をより分かりやすくしていく。「書くこと」の問題で得点するために、基本的なポイントや形式をおさえ段階的に取り組む工夫を行う。また、テストだけでなく授業内で作文指導を定期的に行い、記述問題を習慣化できるよう取り組む。</p>	

社会科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の研究授業だけでなく、校外における研修会に積極的に参加し、研修会で学んだことを教科担当教員間で共有することで指導力の向上を図る。 ・各学期に1回以上教員の相互授業参観を実施する。 ・班での協働的な学習やディベートなど生徒が自ら課題を発見し解決する機会をつくり、主体的な学びを授業で展開する 	B
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 定期テストや夏休み・冬休みの課題の提出率を85%以上にする。 ◆ 生徒アンケートの「社会の学習はわかりますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 	
<p>【成果と課題】</p> <p>(成果) 校外での研修会に積極的に参加することができ、学んだことを情報共有していった。 生徒アンケートの「社会の学習はわかりますか」の項目で肯定的回答の割合が88.6%で85%以上にする事ができた。</p> <p>(課題) 夏休みの課題の提出率は全学年で高いが、定期テストや冬休みの課題の提出率は低い時もある。生徒が積極的に提出できるように引き続き声掛けを行っていく。</p>	
<p>【次年度に向けた計画】</p> <p>今年は小テストや振り返りプリントなどを使用し、学習内容が定着しているかの振り返りの機会を増やすことができた。次年度は、生徒用タブレットを活用した学力の定着を図るとともに、「協働的な学習」の観点を取り入れた授業の実施をしていく。</p>	

数学科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習プリントや生徒用デジタル教材を活用する。 ・教員間で教材を共有するなど、宿題や授業始めに復習プリントを活用し、反復学習を行う。 ・各学期にチームティーチング授業を行い、個に応じた学習指導の工夫に努める。 	B
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒アンケートで、「数学の授業が楽しいと思う」と肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。 ◆ 夏休みや冬休みの課題の提出率を90%にする。 ◆ チャレンジテストの無回答率を20%以下にする。 ◆ 学校評価アンケートで「授業がわかる」という肯定的回答の割合を70%以上にする。 	

<p>【成果と課題】</p> <p>(成果)・1学期の生徒アンケートで、「数学の授業が楽しいと思う」と肯定的な回答をする生徒の割合は83.8%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みや冬休みの課題の提出率は90.3%。 ・学校評価アンケートで「授業がわかる」という肯定的回答の割合は86%。 <p>(課題)・低学力層の割合が依然として高い。</p> <p>→テスト前学習で放課後補習をおこなうなど、基礎学力の定着を目指す。</p> <p>→復習教材として、スタサプの活用をしていく。</p>
<p>【次年度に向けた計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト前学習で放課後補習をおこなうなど、基礎学力の定着を目指す。 ・復習教材として、スタサプの活用をしていく。

理科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自主学習プリントや入試問題を活用し、小テストを実施する。 ● ICT教材を活用し、生徒の興味・関心を引き出す。 ● 積極的に観察や実験を行い、目的・結果・考察を意識させた授業を行う。 	B
<p>【指標】</p> <p>◆生徒アンケートで、「理科の授業が楽しいと思う」と肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>◆実験レポートの提出率を90%以上にする。</p>	
<p>【成果と課題】</p> <p>(成果)</p> <p>生徒アンケートで、「理科の授業が楽しいと思う」と肯定的な回答をする生徒の割合は83.9%であった。</p> <p>実験レポートの提出率は96%だった。</p> <p>(課題)</p> <p>小テストや定期テストの結果を見ると点数が二極化しているため、基礎学力を向上させるために、学習内容を定着させる必要がある。</p>	
<p>【次年度に向けた計画】</p> <p>小テストなどの振り返りを積極的に行い、基礎学力の向上をはかる。</p>	

音楽科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ活動を積極的に取り入れ、協力することの大切さや互いに高めあう力を習得させる。 ● 視覚、聴覚的に教材の工夫をして「わかる」「楽しい」授業を行う。 ● 授業規律を徹底する。 	B
<p>【指標】</p> <p>◆ 生徒アンケートで「音楽の授業が楽しいと思う」と肯定的な割合を75%以上にする。</p>	

<p>【成果と課題】 (成果) 生徒アンケートで音楽への興味関心に関する肯定的な割合が80%を超えた。 (課題) 今の生徒の現状を踏まえ、音楽に興味関心をもたせるための教材の研究を研鑽してきた。音楽の授業では、子ども同士の互いの信頼関係が必要不可欠である。今後は、子どもたちが安心して学び、自ら考えながら行動できる授業づくりを継続していく。</p>
<p>【次年度に向けた計画】 合唱、創作、鑑賞、器楽あらゆる分野において、子どもたちの心に残る教材づくりを目指す。合唱は、自分たちで高めあい、試行錯誤できる練習方法を計画する。</p>

美術科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎回の授業で ICT を活用し、分かりやすい授業を徹底する ● 対象を見つめ感じ取る力や、想像力を高める鑑賞授業を充実させる。 ● 発想・構想力をを養うためにスケッチの学習を充実させる。 	B
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆タブレット、授業用ノートパソコンを積極的に活用し、美術史上の名画や作品について鑑賞する機会を設ける。 ◆ペア、グループなど形態を変えて、鑑賞授業を行い、考えや思いを述べる機会を増やす。 ◆課題制作においてアイディアスケッチ、制作、振り返りを必ず行い主体的な意欲の向上を図る。 	
<p>【成果と課題】 (成果) 美術作品の鑑賞を重点的に取り組み考えや思いを言える機会を増やせた。 ICT を活用し自分の作品について説明する発表の機会を設けることができた。 相互の作品を鑑賞し主体的な授業ができて生徒の学習に対する向上につながった。</p> <p>(課題) 電子モニターを使った鑑賞授業を充実させる必要がある。形態を変えるだけでなく発問内容を考えて答えやすい内容にする必要がある。 構想力を高め、表現活動の一環としてスケッチに加え、来学期は参考資料などを充実させ制作内容に幅を持たせなければならない。</p>	
<p>【次年度に向けた計画】 モニターやプロジェクターで教材や資料を投影するだけでなく、学習用端末機器のツールやアプリを活用した授業を展開していく必要がある。課題作品を鑑賞する機会が2学期以降難しくなったため、次年度は自分の作品に対して振り返る時間を今以上に設けたいと考えている。</p>	

保健体育科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究授業を年間1回以上実施する。 ● 教科で教材を共有する。 ● 月一回以上、教科会を持ち情報共有を行う。 ● ICT教材を使用し、生徒が主体的に学ぶ授業実践を行う。 ● 毎時間ペア活動、グループ活動を取り入れ、協働的な学習の機会を設ける。 ● 体育行事の活動を充実させる。 	B
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒アンケートで「体育の授業がわかる」と肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 ◆ 保健分野のICT教材使用割合を80%以上にする。 ◆ 体育関連行事の校内アンケートで肯定的な回答を85%以上にする。 	
<p>【成果と課題】</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期の学校評価アンケートで「体育の授業がわかる」89.6%で前期とほぼ変わらず目標の85%を超えることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年によって取り組みが様々なので、もう少し教科会を充実させたい。 ・今までの指導方法で効果を得られないことも時代とともに変わってきているので、今の子どもたちにあった、学校にあった指導方法を模索していく必要がある。 	
<p>【次年度に向けた計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の細案を作成し、体育科として協力できるところを増やしたい。 ・苦手な生徒へのアプローチをTT等で効率よく指導したい。 	

技術家庭科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技術科と家庭科の相互授業参観を行い、授業力向上を図る。 ● 提出物の提出状況を生徒に示すようにする。 ● 欠席等で作品の完成が遅れている生徒へ個別に相談し、完成させるようにする。 	B
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 提出物を提出した生徒の割合を80%以上にする。 ◆ 製作物が完成した生徒の割合を80%以上にする。 ◆ 技術科と家庭科の連携した授業を1回行う。 	

<p>【成果と課題】 (成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術科と家庭科の相互授業参観を2学期に行うことができた。 ・提出物を提出した割合は1学期で1年84.6%、2年73.6%、3年79.5%であり、指標を達成することができなかった。3学期の提出物について回収日がまだ来ておらず集計できていない。 ・提出物の提出状況を生徒に示すことができた。 ・製作物はまだ完成していない。3学期に完成する予定である。 ・技術科で栽培したラディッシュを家庭科で調理実習として行うことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物、製作物を指標とした場合、最終反省時に正確な数値を算出できず生徒の実態を把握しにくい。
<p>【次年度に向けた計画】 生徒アンケートを元に指標を設定し、成果と課題を実態把握に努めたい。</p>

英語科	達成 状況
<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研究授業を計画的に実施し、研究協議を持ち、指導力の向上に努める。 ●デジタル教科書やICT教材を使用し、生徒が主体的に学ぶ授業実践を行い、言語活動の充実に努める。 ●習熟度別授業を実施し、個に応じた授業実践を行う。 ●単語テスト・小テストを適宜実施する。 ●英検二次試験対策の補習を行う。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆毎時間 ICT 教材を使用する。 ◆生徒アンケートの「英語はわかりますか」の項目で、肯定的な回答の割合を70%以上にする。 ◆習熟度別少人数授業に関する生徒アンケートで「授業がわかる」という肯定的な回答の割合を70%以上にする。 	B
<p>【成果と課題】 (成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎時間、ICT教材を使用して授業を実施している。 ・各学年の生徒の特色に応じて、「わかる」を意識した授業づくりをしている。 ・「わかる」に少しでもつなげるために、単語テストや単元テスト等の小テストを実施し、理解度を図る機会を設けている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各学級の実態に応じた授業速度や授業内容をもう少し熟考しなければならない。 ・習熟度別、分割授業についてしっかり計画を立てる。 	
<p>【次年度に向けた計画】 ・習熟度別、分割授業について、生徒アンケートで「授業がわかる」という肯定的な回答の割合が上がるように計画を立てる。</p>	

<p>取り組み内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>読書活動の推進（各学年・読書担当）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共図書館による学校支援サービスを利用する。 ● 各クラスに学級文庫を設置し、読書の機会を確保する。 ● 生徒委員会を中心に読書推進のための活動を計画し、実施する。 ● 蔵書の充実等、継続して学校図書館の魅力向上に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 年間1回以上、公共図書館の「団体貸し出し」や「読み聞かせ」を活用する取り組みを行う。 ◆ 図書館補助員と連携し、学級文庫の図書の入替えを年間2回以上実施する。 ◆ 生徒アンケートにおける「読書の時間は集中して本を読んでいますか」（前年62.3%）「学校図書館は落ち着いて読書ができる魅力的な場所で、本を読んでもみようという気持ちが増した」（前年60.5%）の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。 ◆ 生徒一人当たりの年間貸し出し冊数を2冊以上にする（前年度1.9冊）。 	C
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）②今年度は、学級文庫の入替えを1月・2月で実施することになった。</p> <p>③「読書の時間は集中して本を読んでいますか」（前年62.3%）という項目について、63.88%と向上させられた。また、「学校図書館は落ち着いて読書ができる魅力的な場所で、本を読んでもみようという気持ちが増した」（前年60.5%）の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を63.28%と向上させることができた。</p> <p>また、図書室の開放を1年間行うことができた。</p> <p>（課題）①公共図書館を活用しての取り組みを行うことができなかった。</p> <p>④生徒1人当たりの年間貸し出し冊数の平均が1.1冊と前年度よりも減少傾向にある。</p> <p>図書館司書と連携して、館内整備をして、来館者数の増加にも努めたい。</p>	
<p>取り組み内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力の向上（マラソン委員会 委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体育科授業、体育的行事、部活動（運動部）などの学習や活動を通して、子どもの体力・運動能力向上のための取組を充実させる。 ● 体育の授業、体育的行事、部活動（運動部）のほかに、昼休みなどで、日々、体を動かすことができる環境を整える。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 運動部所属生徒へのアンケートで「充実している」と肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ◆ 体育大会・マラソン大会における生徒アンケートで肯定的に回答する生徒の割合を80%以上に維持する。 	B
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）しばらくできていなかったマラソン大会に代わり、学年別駅伝大会を実施した。</p> <p>（課題）引き続き体力・運動能力向上のための環境を整え、取組を充実させる。</p>	

<p>取り組み内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>食育指導（健康教育部（給食・食育担当））</p> <p>●給食指導や家庭科授業など様々な機会をとらえて、食育を推進する。</p> <p>【指標】生徒に給食アンケートを実施し、「全部食べた」や「ほとんど食べた」という肯定的な回答割合を80%以上にする。</p> <p>◆生徒アンケートにおいて「毎日朝食を食べる」や「ほとんど毎日朝食を食べた」の肯定的内容の回答割合を85%以上にする。</p> <p>◆食への興味関心を持たせるため、食育通信の配布や講話の計画、給食の時間を有効活用する。（保健委員の活用）</p>	B
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食アンケートは89.0%、朝食についてのアンケートは89.4%で目標を上回った。 ・各教室に食育通信、献立日めくりカレンダーを掲示し、保健委員がめくるようにした。 ・家庭科の夏休みの宿題で、生徒が朝ごはんの献立を作る課題に取り組むようにし、朝食の大切さを考える機会をもった。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスによりカレンダーめくりのばらつきがある。生徒が興味を持つようにカレンダーの内容について検討が必要。 	
<p>取り組み内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>保健指導（健康教育部（学校保健担当））</p> <p>●本校の健康課題の改善に向け、保健だより等で情報発信を行い、保健員会などを活用し、啓発活動を進めていく。</p> <p>●保健指導を活用し、より健康への意識を高める。</p> <p>学校保健委員会を開催し、保健委員会の取り組みや健康課題について、校医・保護者と連携しながら、課題解決について話し合う。</p> <p>【指標】</p> <p>◆保健指導を年2回以上行う。</p>	B
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎月の保健だよりの発行している。さらに月に流行る疾病の感染予防方法など、臨時発行する保健だよりを通して情報発信を行なうことができた。 ●保健委員会を活用し、手洗いや換気等の感染症対策のポスターの作成・提示により、感染予防についての呼びかけをした。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的な保健指導ができるように各学年や関係の組織と打ち合わせをしっかりと行い、時間確保していきたい。 ・今年度は学校保健委員会を開催できなかった。来年度の開催について検討が必要であり、今後の課題である。 	
<p>次年度に向けた計画</p>	
<p>年間保健計画案を作成し、案に沿って計画的に全体への保健指導ができるようにしたい。そして、より心身の健康への意識を高めさせたい。</p>	

中期目標は年度目標と同等、もしくはやや低く設定されているので、成果と課題についての記述は、そのまま中期目標に対してもあてはまる。

大阪市立淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標：R6の目標をR7も継続</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の<u>50%以上</u>にする。（ただし大阪市教育委員会事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）（R6：48%）<u>R7：24%＝×</u></p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を<u>50%以上</u>にする。 （R6：47%）<u>R7：43%＝×</u> 注 45時間以内のみだと69%</p> <p>注：基準1＝1か月時間外勤務45時間以内 かつ 1年間時間外勤務360時間以内 基準2＝1年間時間外勤務時間720時間以内 かつ 1か月時間外勤務時間45時間を超える月が1年間6月以内 かつ 1か月時間外勤務時間100時間以内 かつ 連続する2か月の平均時間外勤務時間が80時間以内</p> <p>学校年度目標</p> <p>○1人1台端末の環境を生かし、デジタルドリルなどを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びの実現へ取組みを推進し、生徒アンケートで「ICT機器や資料などを示し、教え方を工夫してくれていますか」について、肯定的な回答を<u>90%以上</u>にする。（R6：86%）<u>R7：90%＝○</u></p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容・指標 【学びを支える教育環境の充実】	達成状況
<p>取組み内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT教育の推進（教務部（ICT担当・CIO））</p> <ul style="list-style-type: none"> ● わかりやすい授業を推進するために、一人一台のクロームブックなどのICTを用いた視聴覚教材の使用を進める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒アンケートで「先生はICT機器や資料などを示し、教え方を工夫してくれている」の項目において肯定的な意見を90%以上にする。 ◆ 年1回オンラインで授業する取組みを行う。 <p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroomを使い、文化祭のアンケートを実施した。 ・スタディサプリを週3回各学年で実施している。自主的に取り組む生徒もいた。 ・スタディサプリで、動画の視聴を生徒にさせた。 	C

<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタディサプリを上手に活用できている生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ・タブレットの持ち帰りに備えて、タブレットの学校内での取り扱いや自宅での活用方法を考えていきたい。 ・心の天気やタブレットの有効活用が徹底できていない。 	
<p>取り組み内容②【基本的な方向9 家庭・地域等との連携協働した教育の推進】</p> <p>地域・家庭と連携協働した開かれた学校づくり（管理職）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校元気アップ支援事業による「土曜学習会」を継続して実施し、自主学習習慣の改善につなげる。また、地域ボランティアとの交流を通じて学習意欲向上につなげる。 ● 学校元気アップ支援事業による「英検」「漢検」の取組を校区小学校と連携して継続し、学習意欲向上につながる機会を提供する。 ● 学校元気アップ支援事業による「放課後図書館開放」「小中図書交流」を継続し、読書活動の推進と小中連携につなげる。 ● 学校元気アップ支援事業による「校内緑化の改善」を進める。 ● たぶんか進路説明会の運営委員会の一員として、地域 NPO・区役所・共生支援拠点との連携により、たぶんか共生教育の推進につなげる。 <p>⇒それぞれの取組において、これまで受け継がれてきた取組への尊重をベースにしながらも、より実態とニーズに応じたかたちを模索していく。</p> <p>※教育活動のスリム化と重点化、持続可能であることをその見直しの根底とする。</p>	B
<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「土曜学習会」「英検」「漢検」「放課後図書館開放」「小中図書交流」「たぶんか進路説明会」への参加生徒の人数を昨年度より増加させる。 ◆ 学校元気アップ支援事業運営委員会で、それぞれの取組の「実態とニーズに応じたかたち」への見直しを進める。 	
<p>【成果と課題】</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校元気アップ支援事業による「土曜学習会」「英検と漢検」「放課後図書館開放」については計画通りに実施中である。英検・漢検について、R6＝漢検 106 名、英検 188 名であったが、R7＝漢検 79 名、173 名とどちらも減少している。 ・たぶんか進路説明会については運営委員会の一員としての貢献は十分とは言えないが、運営委員会の丁寧な準備により、共生教育の推進につなげる貴重な機会を提供できた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢検」については今回校区小学校の運動会と重なってしまい、昨年度の人数から大幅に減少するという結果になった。今後、さらに小中連携を深め、地域の取り組みとして淀中ブロックで取り組んでいきたい。 ・「土曜学習会」については、校内の「放課後学習会」との差別化・意義づけが難しく、継続すべき取組と考えているが、参加人数の十分な確保に至っていない。 ・たぶんか進路説明会については、その他の同様の説明会との差異化とさらなる有効な機能を運営委員会で検討中である。 ・「校内緑化の改善」は立案はしたものの、酷暑の下でのその後の水やり等のお世話を考えると継続が難しいと考え、今年度については断念した。 	

<p>取り組み内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革（管理職）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ICTの活用を活発にすることで、情報共有や教員間連携を円滑に行うよう努める。 ● 地域人材や部活動指導員の活用を推進し、教員の業務負担の軽減を図る。 ● 校内の若手育成研修を充実させ、若手教員の不安感を軽減する。 ● 教職員のワークライフバランスの推進に努める。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ アンケートは集計の手間を無くすため、Forms等を活用する。 ◆ 部活動指導員や学びサポーターの配置を昨年度（14名）より増やす。 ◆ 若手育成研修を年間2回開催する。 ◆ 全ての教職員が5日以上の子次有給休暇を取得する。 	B
<p>【成果と課題】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職発信のアンケートは学習者用端末入替の時期のみ紙で実施したが、それ以外は全てオンラインで実施することができた。 ・部活動指導員、各種サポーターは現在17名在籍しており、教員の業務負担の軽減につながっている。 ・若手育成研修は2回実施済みであり、次年度に向けて新たな研修を企画していきたい。 ・年次休暇の取得について、すべての教職員が5日以上の子休を取得することができている。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更なる業務の効率化を進めるために、現状を把握し改善策を考えていく必要がある。 	
<p>次年度に向けた計画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の働きやすい環境づくりや教員の負担軽減が実現できているかをアンケート等で確認し、ニーズに合わせた取り組みを行っていく。 ・校内研修を教員にとって負担の無いように計画する。 	

中期目標は年度目標と同等、もしくはやや低く設定されているので、成果と課題についての記述は、そのまま中期目標に対してもあてはまる。